「モダン猿蟹合戦」

宮本百合子

青空文庫

二日ばかり前のことです。用事があって下町へ出かけ、日本橋白木屋の前を通りがかった。いつも人出の多いところだが、今日は又一段と雑踏だ。白木屋の飾窓のまわりが大変な混雑なのです。

何かと思って見ると、いくつも並んだ大きいデパートの窓々に飾られているのは、例によって呉服物の見本をきた人形ではない。――人形は人形だが、こしらえものの雪の中に立って防寒具をつけた兵士人形です。人がウンとたかっているのはそれを見ていたわけです。大きい字で「満蒙展覧会」という広告も出ている。

時間があったので一寸入って見る気になりました。

白木屋の玄関に立っている案内がきをよむと、展覧会の会場はいくつもあり、近日中にえらい陸軍の軍人が来て景物に講演をやったり、軍用犬の実演をやって見せたりする日どりまで知らしてある。――

御承知の通り、この頃は毎朝新聞をひろげると、満蒙派遣軍の記事でいっぱいです。満州の戦のことばっかり書いて、慰問金寄附の金額がさながら浅草観音の寄進帳のようにズラリとすられている。世界には満蒙事件のほかにいろいろ大切なことが起っているでしょう。日本の中にだって手近いところで市電の大首キリが迫っているし、八幡製鉄所に千人ちかい整理である。東北青森地方はひどい飢饉です。

そういうことはちょいと新聞にのるだけであとは、どっちを向いても「満蒙」「満蒙」です。われわれの考えるべきこと熱心になるべきことは満蒙事件しかないようですが、それならそれでいい。そもそも満蒙について、白木屋の展覧会はわたし達にどんなホントウのことを教えてくれるか。それを見たくて入ったわけなのです。

割引電車のように込むエレベータアにつめこまれ、五階でおろされる。紅白幕で飾った展覧会の入口から、マア、これはひどい勢いだ。小学生、小さい女学生、印バンテンの労働者、お仕着せを着たどっかの小僧さんの一団までをまぜて、見物人は犇々(ひしひし)太い丈の手摺りぎわへつめよせ、ギッシギッシと動いている。誰もかれも上気(のぼ)せている。係の店員が「御気分のおわるい方は救護所がございます！」と叫んでいる始末だ。「モダン猿蟹合戦」という絵物語が、みんなをこんなに吸いよせているのです。

猿蟹合戦のはなしを知らないものは子供だっていない。そこをうまくつかまえ、猿を支那にしてある。蟹は日本です。

蟹が日清戦争で遼東半島というデカイ握り飯を貰ったら、熊（これは帝政時代のブルジョア・地主のロシア）虎（フランス）狼（イギリス）が出しゃばって来て日露戦争で握り飯を蟹からとりあげ小さい柿の種（北満）をおしつけた。百姓姿の蟹は仕かたがないから、その柿の種にせっせと肥しをかけ（二十七年の歳月。十万の聖霊、二十億の投資と書いてあります。）やっと柿の実（石炭、石油、大豆、燕麦その他）をみのらしたら、その出来がいいので猿がやっ

かみ出した。

柿の実を盗もうとして、日本の南満州鉄道を囲む鉄道を幾条もつくった。だが蟹は青いカンシャク面をしながらこらえていたら、猿は図にのって柿の木を根っこから切り倒そうとしはじめた。これが九月十八日の満鉄爆破であると。爆発した線路で汽車が顛覆しそうになっている物凄い絵が描いてある。そこで蟹も我慢出来ずに鋏で突いた。これが満蒙出兵だそうです。すると、猿は、虎、狼などが集まっている国際連盟にかけつけて、告げ口をしている。しかし、蟹は眼尻をつりあげて柿の木の下にがん張っています。その絵のところにはこう書いてある。

「昔の猿蟹合戦では、子が仇をうった。けれども今は子や孫が仇うちをするということは出来ない。何故なら満蒙はわれらの生命線であるから一旦これを切られたら永久に死ななければならないのだ」

これは陸軍省で描いたものです。みんなは感心して、「なる程ねえ」といって見ている。小学校の六年生ぐらいの女の子が突然群集の中から大きい四辺かまわない声を出して、

「満州をとっちゃうと、もっと金や何かとれて得するねエ」

と云うと、一緒に見ていた若い学生がさすがにきまりわるそうな小声で、

「とるんじゃないよ」

と云った。（成程ブルジョア新聞には満州をとるとは書いてない。）

「じゃ借りるの？」

「――さア、何ていうのか――」

うまく説明がつかないで、そのまま黙ってしまった。

絵はいろんな色がつかってひどく人目をひくように描かれているし、みんなの知っている猿蟹合戦になぞらえ、猿は仇と昔ながらにきめて扱ってあるから、一応だれにでも訳はわかるような気がするのです。

ところがヨクヨク気を落ちつけて見ると、この絵物語は変だ。

そもそも遼東という握り飯を先ずとり、それを柿の種に代えられたという蟹は、日本とだけ書いてあるが、ジックリ考えれば妙な話です。日本と云っても資本家とそれに搾られている勤労階級というものがハッキリわかれてある。そのうちどっちが柿の種を貰ったのでしょうか？

満州へ出稼ぎに行ったという人は、われわれ働く者のまわりにもあります。だが満州にいる誰かに雇われて働らかされに行ったのであって、われわれの内誰一人、南満州鉄道の大株主だというものはない。

工場で誰の儲けのためにわれわれは、長い時間働らかされていますか。野良で、誰が懐手をして食う米をわたし達は作らされているでしょうか。

満州という柿の種にせっせと肥しをかけ働いている蟹はわれわれに近しい百姓姿に描いてあるが、みのった収穫は誰がとるかという肝心かなめのところは絵のどこにも描かれていない。

みなさん。ここが大切なところです。それは、絵にかけまい。満州こそ、三井、三菱、住友

なぞという大ブルジョアが資本家・地主の政府と腕を組んでせっせと搾っているところだ、日本人が内地から出稼ぎに行って搾られているばかりではない。その土地の支那労働者、農民がもろともにしぼられている。

なぜ、三井とか三菱とかの大ブルジョアは満州を殖民地として搾るかと云えば、満州では石炭とか石油とか穀物にしろウンと取れる。日本のブルジョアはそういうものの経営と利潤とを自分等の手で独占し、内地で出来る商品を同時にそこへ売り込もうというこんたんです。朝鮮、台湾で同じことがやられている。

日本のブルジョアがそうするだけでなく、イギリスのブルジョアはインドを、フランスのブルジョアはアフリカを、同じように殖民地としてしぼっては売りつけて来ているのです。

さて、展覧会の絵ときで見ると、柿のいい実を嫉んで猿が盗もうと満鉄包囲線をこしらえたような工合ですが、待って下さい。ここにも間違いがある。猿が自分でだけそんな鉄道をこしらえたのではないのです。

ひろい支那の、天然の産物＝ブルジョアの儲けのたねに恵まれた土地を殖民地にしようとして狙っているのは日本のブルジョアばかりではありません。アメリカのブルジョアもイギリスの資本家も目を離さず隙をうかがっている。日本のブルジョアだけに甘い汁を吸わせてはおかない。アメリカのブルジョアは南京政府、蒋介石を抱き込んだ。イギリスのブルジョアは関東政府を抱きこみ、日本のブルジョアは北満、蒙古にと陣どり、支那のブルジョアを手先につか

って、めいめい激しい支那分けどり争いをやって来ていたのです。

何故、では、今年も末になって、満蒙事件が起ったのか。

中村大尉が技師にバケ込んでいたのをころされたからでしょうか？　長い長い南満州鉄道の線路をタッタ二メートルだけ壊されたからでしょうか？（絵はウソを描いている。汽車なんぞひっくりかえりはしなかった。）

もちろん、そうではありません。

お互の日常の暮しがそれを示しているとおり、昨今の不景気は話にならない。この不景気はメドがつきません。資本主義の世の中は行き詰ってしまって、十二月になっても政府の予算が出来ないという有様だ。首キリ絶対反対！　労働賃銀値下げ反対！　税を〔三字伏字〕！　都会でも農村でも、搾られている勤労大衆は、ケッ起してブルジョア・地主に〔四字伏字〕ています。

ブルジョアは絶体絶命です。

この世の中をブルジョア・地主の天下として、資本主義の経済＝搾るものと搾られるものとの対立した生産関係＝でやって行こうとすれば、不景気はなおりっこない。

不景気は直らないと知って、ケッ起した勤労大衆の力は、天下をやっと取っているブルジョア・地主を今にもひっくり返しそうなところまで高まって来ている。

ひっくりかえされては最後だ。ブルジョア・地主は必死の力をしぼって、政府をいろんな形

にかえようとして見たり、ダラ幹無産政党を総動員して大衆の鋭い力に対して自分たちの用心棒となるブル反動御用「労働クラブ」をつくろうとしたり、見栄をすてて奔走している。

正しい道理では何としても勤労大衆の要求と押して来る力にかなわないから、仕様がない。腕ずくでタタんじまえ！　というせっぱつまったところまで、ブルジョア・地主の世の中は〔二字伏字〕して来ているのです。何とかして大衆の力をたたき潰す折はないか。自分たちから、あの恐ろしい数千万の働くものの眼をそらさせる方法はないか。実にあせっていた。

そこへ、幸い中村大尉がころされた。しかも好都合なことには、同じ満州に野心をたっぷりのイギリスでは、不景気の金輸出禁止でゴタつき政府がかわったり何かしている。ソラ、この時をのがすなとばかり中村大尉事件と鉄道ハカイを口実に、日本のブルジョアはワーッと満州にのし出し、〔二字伏字〕し、お手盛で手先となる支那ブルジョアを〔二字伏字〕政府に〔三字伏字〕こんだのです。

それを知ったイギリスのブルジョア、アメリカ、フランスのブルジョアが黙っていない。お前に満州や支那の利益を独占されてはやりきれないと、いろいろごてつく。――つまり、分け前のかけ合いをはじめた。ジェネワの国際連盟というものの本体はこれです。

ところで、支那のプロレタリアート・農民の身になって考えて見て下さい。われわれが工場、農村でブルジョア・地主にしぼられるとおりしぼられ、しかもその地方のブルジョア御用軍閥が戦うたんびに税はとられる。畑は荒らされる。年じゅう飢饉も同じです。その上に、日本や

アメリカ、イギリスの帝国主義侵略にあってだまっていられますか。

支那の勤労大衆は立ち上って、あらゆる国のブルジョアの侵略絶対反対を叫び出した。支那に広いプロレタリアート・農民が自分の力で統治するソヴェト地方が出来ている。そこが中心となって反帝国主義侵略運動をおこした。

白木屋の展覧会には、よくわけを知らない見物人に腹を立てさせるため、排日のビラだけを実によく集めて並べている。滑稽なことだ。支那の大衆は排日をしているばかりではない。排英です。排米です。そして、自分たちの国から支那のブルジョア・地主軍閥をも追っぱらい、すっかり働く者の国ソヴェトにしたいのです。

ジェネワで国際連盟は、支那わけどりの割前について互にかけ合っているだけではない。どうしたら支那ソヴェト地方をぶっ潰すか、あわよくばソヴェト同盟もこの際ぶっ潰すかということを、熱心に研究している。

わけ前については各国のブルジョアはいがみ合います。（この間ラジオＪＯＡＫで徳川公爵が国際連盟をこわがるナという、殿様らしくもないブルジョア・地主のメガホン役をつとめました。）しかし、一旦ことが支那ソヴェト地方、ソヴェト同盟〔四字伏字〕の件になると、みんなは仲よく結合する。力を互にかし合う。それは何故か？

世界のブルジョア・地主にとって、働く者が自分たちで生産を統制し、政治をやって行く社会主義の国ほど憎い恐しいものはない。

ソヴエト同盟があるばかりに世界の勤労大衆が第一ハッキリ知ってしまった。搾られずに生きる世の中には、自分等の力で建て直せるものだと。

しかも、あらゆる生産はソヴエト同盟で計画的に、大衆の共力によって社会主義的にグングン作られて行くから、ブルジョア生産のように下らない資本家同士の競争やぶつかりが無く、どこもかしこも不景気の中に、ソヴエト同盟だけはどうでしょう！

五カ年計画が着々進んで失業がない。

労働時間は八時間から七時間になる。

賃銀はアガる。

農民の生活は集団農場化で、目ざましく楽になって来ている。

どこの国の勤労大衆だって、働くものの身になって見ろ。自分のところもそうしたい。大衆のその望みは、深刻な恐慌につれダンダン形をとって来るから、各国のブルジョアは、大衆のその的を自分等の罪からハグらかすため、敵らしいものを外に求め、それを押しつける。

今われわれは尤らしいものとして満蒙の利権擁護というものを押しつけられているわけです。

一昨年からの不況は何しろ、一般の生活にこたえて来ている。まして、暮れに迫って、誰しも「何とかならなければ……」という気分が世間にみなぎっておった。

そこへ、さもこの世界的（ソヴエト同盟をのぞいて）不況がそれで救われでもするように、われわれ搾られているものの利権、生命線がそこにありでもするようにジャンジャン満蒙事件

をアジリまわす。

何とかならなければという行きづまった世間の気分はうまくブルジョア・地主に向きを換えられソラされてしまったのです。

それぱかりか、この満蒙事件をキッカケにブルジョア・地主の政府は愛国主義、ファシズムをふりかざし一切の大衆的な働く者の闘争的な力を、根こそぎ押し潰そうとしているのです。

満蒙問題を、さも挙国一致で、プロレタリアート・農民・小市民まで〔二字伏字〕しなければならない問題のように扱っているところに〔二字伏字〕があらわれている。

この一大事の時にストライキなんぞをする奴があるか、国賊奴！

小作ソーギなんぞやってるときか、頓痴気奴！　トテトテトウ！　テテトテトウ！

こんな胡魔化し騒ぎで命をとられるのはバカらしい。御免蒙りたいなどとは云わさない。この際戦争反対をとなえるような者は獅子身中の虫だと、やっつける。

みなさん。ブルジョア・地主は遠い満蒙へ兵士をくり出したのではありません。実はここで、われわれ勤労大衆の盛りあがる力に向って、それをとっぷせるためにくり出しているのです。

だから、いつもストライキを売ったり、賃銀値下げの片棒をかついだりしている社民、労農大衆党などというブルジョア・地主の手代無産政党は今度のことについて何と云っているか。主人に「ワン」と云えと云いつけられるとおり「ワン、ワン」とやっている。——搾られているわれわれ大衆の立場からでも、満蒙の権益擁護は認めることが出来るなどと嘘をついている。

ブルジョア・地主につらまって、自分らを放っぽり出す正しいプロレタリアート・農民の力を、ついでに〔一字伏字〕そうとかかっているのです。

われわれ働く者はみんな、婦人は云わずもがな、ハッキリ、事の真相を知っていなければなりません。

満蒙を殖民地としたって、この世にブルジョア・地主がある間、われわれの解放は決してない。搾取者がある間、搾取される者の苦しみは消えない。不景気の根が絶えるとでも思ったら大間違いです。世界の不景気は、世界のブルジョア・地主自身がこしらえているものなのです。支那のわれわれと同じに搾られている大衆の知ったことか！

機械は働くもののためにまわり、田畑は耕すものの幸福のために実る社会、ソヴェト同盟のようになってこそ、初めて首キリもなく失業もない世の中になるのです。

働く者は、働く者の国ソヴェト同盟と支那ソヴェト地方の味方なのは当然です。ブルジョア地主がソヴェト同盟をつぶし、支那のソヴェト地方をやっつけ、つまりわれわれが当然の権利として解放されようとするのをやっつけようとする時、われわれは勇ましく〔十字伏字〕。

まして、働く婦人はそうです。

さて、満蒙事件についてはこの話のとおりですが、白木屋を出て、何とも云えない心持になった。

僅か十一二歳のお下髪（さげ）に洋装の小学生が二人店の外に立っていて通る女をよびとめ、白木綿

に赤い糸で一針ずつ縫って貰っている。俗に云う千人縫いです。

「それは何ですか?」

ときいたら、自分の云うことをあやしみもしないで、

「弾丸よけになるんです、満州へ送るんですから、どうぞ」

と、その理科を学校で習っている生徒が答えた。

みなさん、この進歩した武器で、飛行機の上から毒ガスを撒き、バク弾を下す戦いで、チョビ、チョビ赤糸でとめた白木綿が何の役に立ちましょう。刀をふりあった昔、刺子は幾分役に立ったろうが、今では全く役に立たない迷信です。

そんなことをやる間に、小学生たちは、兄貴を殺すな！　父ちゃんを殺すな！　と、ブルジョア侵略戦争反対の叫びをあげるべきではありませんか。

これは物心の少ない少女だけではない。立派な大学生が、往来で、われわれのブルジョアの尻馬にのり、いい気になって寄附募集のメガホンをふいている。

ブルジョアが経営している劇場東京劇場は早速御用劇「満蒙事件」を上演する。ブルジョア新聞で一つとしてことの真実にふれた報道をしているのがあるでしょうか。

ラジオは一日に何度となく満蒙ニュースを放送する。

これを見て、ブルジョア文化というものが、どんなに臆面なくブルジョア自身の利益を守るためには形を変えられるものであるか、まざまざと理解される。

ブルジョア自身の利益である間ラジオも新聞も劇場も世界平和主義、協調主義を放送する。それがブルジョアに不便となれば、忽ち理屈のあるらしい口実によって、まるで逆のことをドンドン宣伝するのです。

われわれ働くものにとっては、常にわれわれの立場に立ち、真実を明らかに示し、進む道を示してくれるわれわれ自身の文化、プロレタリア文化がなければなりません。

これまでは、各団体が別々に働いていた種々のプロレタリア文化団体が今度結合して日本プロレタリア文化連盟となったのは、ほんとに悦ばしいことです。

その中に、働く婦人大衆のいろいろの文化的問題をとりあげて行く婦人協議会というのもあります。

わたし達みんなの路を照らす正しい篝火（かがりび）として、日本プロレタリア文化連盟を守って強く輝しく育てなければならないと思います。

〔一九三二年一月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十四巻」新日本出版社
　1979（昭和54）年7月20日初版発行
　1986（昭和61）年3月20日第5刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第九巻」河出書房
　1952（昭和27）年8月発行
初出：「働く婦人」
　1932（昭和7）年1月創刊号
※「×」傍点は底本、もしくは底本の親本で伏せ字を起こした文字。
入力：柴田卓治
校正：米田進
2003年5月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

「モダン猿蟹合戦」

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/